

施策番号	2101	成果指標					
		指標名	単位	区分	H30	R1	R2
施策名	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します	日頃から学習や習い事を行っている区民の割合	%	目標	27.3	27.5	29.2
				実績	26.7	29.2	27.3
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

		事務事業	担当課	区分	頁
	計画	かつしか区民大学事業の推進	生涯学習課	◎	1247
	計画	郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修等	生涯学習課	◎	1249
		学校施設等開放	教育総務課	◎	1251
		学習相談・学習情報の提供	生涯学習課	◎	1253
		館だより等発行（郷土と天文の博物館）	生涯学習課	◎	1255
		考古学調査・講座	生涯学習課	◎	1257
		子どものための博物館講座	生涯学習課	◎	1259
		生涯学習援助制度	生涯学習課	◎	1261
		生涯学習人材バンク	生涯学習課	◎	1263
		成人対象講座	生涯学習課	◎	1265
		地域教育機関連携事業	生涯学習課	◎	1267
		出前教室	生涯学習課	◎	1269
		天文学調査・講座	生涯学習課	◎	1271
		博物館ホームページの運営	生涯学習課	◎	1273
		プラネタリウム番組制作	生涯学習課	◎	1275
		民俗学調査・講座	生涯学習課	◎	1277
		リーダー育成等	生涯学習課	◎	1279
		歴史学調査・講座	生涯学習課	◎	1281
		維持管理（郷土と天文の博物館）	生涯学習課	○	1283
		寄贈・収集資料整理	生涯学習課	○	1284
		工芸教室	生涯学習課	○	1285
		社会教育委員の会議の運営	生涯学習課	○	1286
		学び交流まつり	生涯学習課	○	1287

※「計画」は、後期実施計画に位置付けている事務事業であることを表します。

※「◎」は、事務事業評価表を作成した事務事業であることを表します。

※「○」は、事務事業一覧表を作成した事務事業であることを表します。

事務事業評価表

事務事業名	かつしか区民大学事業の推進						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成22年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(8)	
事務事業目的	多様な学習の場として、区民の自己実現を支援する。また、様々な地域活動や市民活動の担い手・リーダーとして活躍し、地域に貢献できる人材の育成に努める。										
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域を知り、まちを感じ、葛飾を愛する『葛飾学』」、「かつしかひとづくり・まちづくり・未来づくり」、「生きがいを創造する知識・教養百科」の3つの柱に基づく講座（106講座）を展開（うち50講座が、新型コロナウイルスの影響により中止） ○公募区民による区民運営委員会を設け、区との協働による事業（6講座）の企画・運営 ○他課との連携による事業の実施 ○東京理科大学などの教育機関や各種団体との連携講座の実施（12講座のうち8講座が、新型コロナウイルスの影響により中止または一部中止） ○学習単位認定制度の実施 ○区民大学情報誌「まなびぷらす」の発行及び、かつしか区民大学メールマガジンの配信 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	団体との連携・協働講座数	区民団体との連携・協働により実施する講座数	講座	目標	—	24	24
				実績	—	19	13
成果	講座受講満足度	かつしか区民大学単位認定講座を受講した際の満足度（アンケート集計）	%	目標	—	50	55
				実績	—	90	92
活動	区民大学単位認定講座数	—	講座	目標	83	100	100
				実績	102	94	106
活動	特別講演会の実施数	—	講座	目標	4	5	4
				実績	4	5	3
活動	区民や団体との協働による講座の団体数	—	講座	目標	13	10	10
				実績	9	10	11
活動	かつしか区民大学単位認定講座の延べ受講者数	—	人	目標	10,300	9,500	9,600
				実績	8,347	7,724	2,477

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	492	693	435
		その他	139	56	43
	一般財源 (a)	50,320	50,171	47,672	
支出	直接事業費 (b)	9,286	9,165	6,690	
	職員人件費 (c)	41,665	41,755	41,460	
		業務量（人）	5.65	5.65	5.65
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	4,750	4,275	4,513	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	4,750	4,275	4,513
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	55,701	55,195	52,663	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	受講者数（人）		
実績数値 (g)	8,347	7,724	2,477
単位あたり区単コスト (a/g)	6,029	6,495	19,246
単位あたりコスト (f/g)	6,673	7,146	21,261

実施状況に対する評価	<p>区民大学の講座所管課に働きかけ、新たな講座を開設した。また、生涯学習課主催で特別講演会を開催した。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を予定していた年間106の講座・講演会の内、50講座が中止または一部中止になり、開催した講座についても感染症対策から大幅に定員を減らしたことから、延べ受講者数は昨年度を大きく下回り、2,477人となった。</p>
今後の方向性【改善】	<p>令和3年度は周知方法にSNSを活用するなど、新たな受講者層の発掘に引き続き取り組む。また、会場内の新型コロナウイルス感染症対策を着実に行うとともに、会場に足を運ばなくても多くの方が学習できる「オンライン学習の場」や、「“対面”と“オンライン”を併用した学びの場」を提供する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修等						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成25年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(6)	
事務事業目的	博物館ボランティアや区民との協働を進め、様々な事業展開を図るため、施設改修を計画的に行う。 これらの取組を通じて、郷土かつしかと天文に対する関心を高めるとともに理解を深め、区民に愛される誇りとされる、何度も訪れたい博物館にしていく。										
実施内容	<p>○施設・設備</p> <p>郷土と天文の博物館は、様々な事業展開を進める上で必要な施設改修を中期実施計画及び後期実施計画において実施し、プラネタリウム機器更新により全国的に評価の高いプラネタリウム番組のクオリティの更なる向上を図るとともに、常設展示室の展示内容を更新し、観望会・講座・展示解説等の博物館ボランティアの活動をしやすいとする。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>常設展示室の改修（令和元年6月より履行開始。令和元年10月から令和2年11月まで部分休館し改修）、令和2年11月にリニューアルオープンした。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	郷土と天文の博物館入館者数	—	人	目標	70,000	74,000	75,000
				実績	56,191	53,036	6,070
成果	ボランティア団体講座等回数	ボランティアが主体となって実施している講座・イベント等の開催回数	回	目標	—	170	170
				実績	154	145	—
活動	常設展示室、プラネタリウム等の改修	—	—	目標	常設展示室改装設計	常設展示室改修	常設展示室改修
				実績	実施	実施	実施
活動	天体望遠鏡による観望会実施回数	—	—	目標	50	50	50
				実績	77	74	—
活動	常設展示室でのボランティア講座の実施回数	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
活動	ボランティアによる展示解説実施回数	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	38	2,158	38
	一般財源 (a)	251,714	152,205	78,190	
支出	直接事業費 (b)	245,014	150,103	72,868	
	職員人件費 (c)	5,430	4,260	4,925	
		業務量（人）	0.75	0.60	0.65
	間接費 (d)	1,308	0	435	
	調整額 (e)	600	405	570	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	600	405	570	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	252,352	154,768	78,798	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	入館者数（人）		
実績数値 (g)	56,191	53,036	6,070
単位あたり区単コスト (a/g)	4,480	2,870	12,881
単位あたりコスト (f/g)	4,491	2,918	12,982

実施状況に対する評価	<p>令和2年11月に常設展示室をリニューアルオープンした。古い時代から新しい時代へと時間軸に沿った編年展示とすることで、以前のテーマ展示に比べ、時代の変遷がたどれる分かりやすい展示にした。最新の映像機器を用いた葛飾の成り立ちや各時代を紹介するコーナーを設け、室内を明るくするとともに、展示室の床上げによるバリアフリー化等を行い、展示室をこれまでより見やすくなるよう工夫した。</p> <p>ボランティア活動、講座は新型コロナウイルスの影響により実施回数が減った。</p> <p>入館者数の減少は常設展示室の改修に伴う部分閉館や、新型コロナウイルスの影響による臨時休館によるものであり、通年で減少したものではないが、増加傾向にあるとは言えない状況である。</p>
今後の方向性【改善】	<p>特別展・企画展だけでなく、常設展示においても「協働」や「体験」といった要素を加味することで、より魅力ある展示内容としていく。また、常設展示室の展示に関連した特別展・企画展も検討することで、各展示から新たな興味を引き出し、再訪を促せるよう、中長期的な視点で展示内容を企画する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	学校施設等開放					担当部	教育委員会事務局			関係課	—
						担当課	教育総務課				
開始年度	平成15年度					個別計画	—				
根拠法令	葛飾区立学校施設使用条例										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	7(1)①	等
事務事業目的	地域に開かれた学校としての機能を増進するため区民の施設利用を推進する。										
実施内容	<p>【概要】 小・中学校の学校施設を学校教育上支障のない範囲で、区民（一般及び登録団体）に供する。 校庭、体育館・ミーティングルーム・会議室・和洋室等</p> <p>【業務委託導入】 実施体制の強化を目的として、業務委託を導入 ・遊び場開放 令和元年度8校、2年度9校 ・学校施設等申請受付 令和2年度2校</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	利用者総数	—	人	目標	900,000	900,000	660,000
				実績	884,516	818,727	409,603
活動	利用可能施設数	—	施設	目標	250	250	250
				実績	220	214	216
活動	利用件数	—	件	目標	—	—	—
				実績	44,275	41,326	22,853
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	6,759	6,376	3,715
	一般財源 (a)	166,810	175,387	180,375	
支出	直接事業費 (b)	79,594	88,977	106,550	
	職員人件費 (c)	89,430	88,020	72,000	
		業務量（人）	13.20	12.60	9.90
	間接費 (d)	4,545	4,766	5,540	
	調整額 (e)	8,700	8,100	7,695	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	8,700	8,100	7,695	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	182,269	189,863	191,785	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	サービス提供回数（利用件数）（件）		
実績数値 (g)	44,275	41,326	22,853
単位あたり区単コスト (a/g)	3,768	4,244	7,893
単位あたりコスト (f/g)	4,117	4,594	8,392

実施状況に対する評価	学校開放は、旧学校も含む77小・中学校の校庭、体育館・ミーティングルーム・会議室・和洋室等を開放し、区民のスポーツ活動、文化活動に広く利用されている。2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開放休止等があり大幅に実績値が減少したが、再開後は回復し、利用件数22,853件、利用者数409,603人に上った。
今後の方向性【継続】	多くの区民の活動の場として学校開放は利用されており、執行体制の整備を進めながら引き続き開放していく必要がある。

事務事業評価表

事務事業名	学習相談・学習情報の提供					担当部	教育委員会事務局	関係課	—	
						担当課	生涯学習課			
開始年度	昭和25年度					個別計画	—			
根拠法令	社会教育法									
予算説明書	会計	—	款	—	項	—	目	—	説明等	—
事務事業目的	<p>個人又はサークルなどで活動している区民が、学習に関する適切な情報やアドバイスを得ることにより、学習活動を深め、団体活動を活性化するよう支援する。</p>									
実施内容	<p>個人又はサークルなどで活動している区民に対して、施設や人材、サークル及び学習機会などの学習情報の提供、並びに、団体運営や学習事業の企画運営などの社会教育に関する相談を行う。</p> <p>生涯学習課及び学び交流館（4館）において、窓口での面談、電話及びメールやオンライン相談などの方法で対応する。</p> <p>学び交流館については、委託業者が対応している。</p> <p>○令和2年度相談件数（学び交流館） 新小岩：60件 亀有：29件 柴又：23件 水元：1件 （生涯学習課）：152件 （郷土と天文の博物館）：85件 計 350件</p>									

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	相談件数	—	件	目標	690	600	600
				実績	575	232	350
活動	相談窓口数	—	箇所	目標	5	5	5
				実績	5	5	6
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H30	R1	R2
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	2,607	3,237	2,489
支出	直接事業費	(b)	0	0	0
	職員人件費	(c)	2,607	3,237	2,489
		業務量（人）	0.33	0.43	0.36
	間接費	(d)	0	0	0
	調整額	(e)	330	342	238
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	330	342	238
		(控) コスト対象外	0	0	0
トータルコスト	(f=b+c+d+e)	2,937	3,579	2,727	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2	
単位の定義	相談件数（件）			
実績数値	(g)	575	232	350
単位あたり区単コスト	(a/g)	4,534	13,953	7,111
単位あたりコスト	(f/g)	5,108	15,427	7,791

実施状況に対する評価	<p>令和2年度より、郷土と天文の博物館での学習相談件数を指標に含めることとした。生涯学習課における相談件数は前年度より59件増加したが、学び交流館における相談件数は26件の減少が見られる。</p> <p>新たなチラシやポスターを作成して配布したが、学習相談ができることを知らない区民も多いため、一層の周知が必要である。</p>
今後の方向性【継続】	<p>区民の目に留まるようなチラシ等を作成・配布したり、インターネットやオンラインを活用するなどして、学習相談ができることやその意義を広く区民に知ってもらえるように引き続き取り組んでいく。</p> <p>また、「団体・サークル紹介カード」に登録する団体を増やす方策を検討するとともに、広報かつしかの「区民の広場」に掲載された団体を紹介する体制を整えるなど、区民が求める学習情報を充実していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	館だより等発行（郷土と天文の博物館）						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(9)	
事務事業目的	区民に博物館事業や調査・研究の成果を知っていただき、博物館への興味を増進させ、併せて生涯学習に意欲を持たせる。										
実施内容	博物館事業の周知や学芸員による調査・研究の成果を刊行物を通して公開するとともに、情報・資料の蓄積を図る。 ○博物館だよりの発行（5,000部/年3回） ○博物館だよりジュニア（32,000部/年1回） ○調査・研究成果の書籍化 平成27年度：館収蔵古文書目録1発行 500部作成 平成28年度：館収蔵古文書目録2発行 500部作成 平成29年度：館収蔵古文書目録3発行 500部作成 平成30年度：館収蔵古文書目録4発行 500部作成 令和元年度：館収蔵古文書目録5発行 500部作成 ＊ 現在、博物館の年間活動（調査成果、展示事業、講座等）を記載した紀要は発行していないが、特別展・企画展の図録で研究成果を公表している。										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	報告書等の販売部数	博物館作成の報告書等の年間販売部数	部	目標	5,000	5,000	5,000
				実績	6,394	4,627	948
活動	博物館だより、博物館だよりジュニアの発行部数	—	部	目標	47,000	47,000	47,000
				実績	47,000	47,000	41,000
活動	刊行物作成部数（博物館だより・ポスターを除く）	博物館での刊行物の年間作成部数	部	目標	500	500	500
				実績	500	500	0
活動	刊行物の種類	博物館における年間の刊行物の作成種類	種	目標	4	4	4
				実績	3	3	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	158	38
	一般財源 (a)	5,625	5,533	4,155	
支出	直接事業費 (b)	1,709	1,859	1,418	
	職員人件費 (c)	3,785	3,395	2,195	
		業務量 (人)	0.50	0.45	0.30
	間接費 (d)	131	437	580	
	調整額 (e)	450	360	238	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	450	360	238
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	6,075	6,051	4,431	

単位当たりコスト (円)	H30	R1	R2
単位の定義	報告書等の販売部数 (部)		
実績数値 (g)	6,394	4,627	948
単位あたり区単コスト (a/g)	880	1,196	4,383
単位あたりコスト (f/g)	950	1,308	4,674

実施状況に対する評価	博物館だよりは、実施イベントを定期的に周知し、イベント等への参加を促すとともに、館の魅力やPRする効果がある。各講座等のアンケートでも、博物館だよりで講座を知った参加者も少なからず存在している。特に、夏休み前に区内の小中学校に配布している博物館だよりジュニアは、夏休み期間のイベントを掲載し、子ども向け講座等への参加や家族での来館を促す効果がある。
今後の方向性【継続】	より多くの方に博物館事業をPRするため、博物館だよりが読みやすく分かりやすい内容になるよう、紙面づくりを工夫していく。また、動画配信サービスを活用して、イベントの内容や館の魅力を紹介したり、QRコードを利用するなど、ホームページと連携した周知方法を検討する。

事務事業評価表

事務事業名	考古学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(3)	
事務事業目的	考古学を通じて、区民等の郷土への理解を深めるとともに、郷土愛を育む。										
実施内容	<p>○葛飾区の考古学に関する調査・研究・発表（講座等） 調査・研究は収蔵資料の実測と資料集の刊行を進めている。考古資料には発掘調査報告書に掲載されていないものが多数ある。中でも、葛西城の出土資料が相当数あり、資料の実測等を行い、図化した資料を資料集に掲載した。講座は考古学の視点から葛飾の地域の特徴を学べるテーマとしている。</p> <p>○博物館考古ボランティア 活動内容：区内の遺跡出土の資料整理、考古資料等の周知事業</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評回答数／アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	0	95	—
活動	講座参加者数	—	人	目標	1,350	1,350	1,350
				実績	0	68	—
活動	講座実施回数	—	回	目標	22	22	22
				実績	0	1	—
活動	講座事業種類数	—	種	目標	10	10	10
				実績	0	1	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	386	167	38
	一般財源 (a)	9,269	6,911	6,979	
支出	直接事業費 (b)	2,327	1,759	2,016	
	職員人件費 (c)	4,345	3,160	2,730	
		業務量（人）	0.55	0.40	0.35
	間接費 (d)	2,983	2,159	2,271	
	調整額 (e)	550	360	333	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	550	360	333	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	10,205	7,438	7,350	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	0	68	—
単位あたり区単コスト (a/g)	—	101,632	—
単位あたりコスト (f/g)	—	109,382	—

実施状況に対する評価	資料の調査・研究は資料実測を順次進め、資料集に掲載した。凶化した資料はこれまで収納箱に入れられたままであったものを資料集にして刊行したことで、展示等で活用する基礎資料を作成することができた。こうした資料を展示等を通して公開することで、郷土の理解や郷土愛の醸成に繋がる。
今後の方向性【継続】	資料の調査・研究は今後も進め、資料集を継続的に作成することで区内で発掘された様々な出土品を展示等を通して公開することに繋げていく。 博物館考古ボランティアは新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、今後はこれまでに発掘された資料を広く区民に周知し、発掘された考古資料を活用して教育普及を図る事業を検討していく。また、講座については、開催に向けて講師の確保に努める。

事務事業評価表

事務事業名	子どものための博物館講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(11)	
事務事業目的	<p>児童・生徒が、講座や体験学習を通じて、区内の歴史・文化・自然等について主体的に学ぶ意識と、正しい知識を持つようにする。</p>										
実施内容	<p>小・中学生とその保護者を対象に、歴史・民俗・考古・天文・埋蔵文化財の各分野で講座・体験学習・工作教室などを行う。なお、歴史講座以外の各講座については各分野のボランティアとの協働により事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史：人車ペーパークラフト ・民俗：田んぼジュニア、江戸川野遊び道場、米づくり体験教室、紙芝居教室、竹とんぼ教室、ミニ門松づくり教室、竹細工教室、ザリガニ釣り ・民俗・天文：湯しぼりで作る月 ・天文：望遠鏡を作ろう、星の学校、かつしか宇宙塾、かつしか宇宙塾ジュニア ・埋蔵文化財：拓本教室 ・館全体：博物館まつり 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評回答数／参加者アンケート数×100	%	目標	92	92	92
				実績	92	92	—
活動	講座参加者数	子どもを対象とした講座等の参加者数	人	目標	7,000	7,000	7,000
				実績	5,299	4,488	423
活動	講座実施回数	子どもを対象とした講座等の開催回数	回	目標	70	70	70
				実績	60	57	35
活動	講座事業種類数	子どもを対象とした講座等の種類	種	目標	18	18	18
				実績	14	15	6
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	1,547	1,418	134
	一般財源 (a)	10,357	8,129	6,649	
支出	直接事業費 (b)	3,517	3,762	1,478	
	職員人件費 (c)	7,340	4,185	3,275	
		業務量 (人)	0.95	0.55	0.55
	間接費 (d)	1,047	1,600	2,030	
	調整額 (e)	900	450	190	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	900	450	190	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	12,804	9,997	6,973	

単位当たりコスト (円)	H30	R1	R2
単位の定義	講座参加者数(人)		
実績数値 (g)	5,299	4,488	423
単位あたり区単コスト (a/g)	1,955	1,811	15,719
単位あたりコスト (f/g)	2,416	2,227	16,485

実施状況に対する評価	<p>参加者数の減については新型コロナウイルスの影響によるものである。実施した事業についても参加率と申込者数は例年通りであるが、野外活動の講座の申込者数は例年以上であった。各講座とも、子どもたちの関心が高いことから継続的に実施している。特に親子での体験講座は人気があり、応募が多い状況である。また、講座を通じて、区の歴史や昔の生活等を学ぶため、郷土葛飾への意識向上の面でも効果があると考えられ、子どもたちが主体的に学ぶ意識と、正しい知識を持つという事業目標は達成できている。</p>
今後の方向性【改善】	<p>現在、子どものための事業として実施しているものの多くが、民俗及び天文分野に係るものである。この2分野の事業についてはアンケート等を参考に、区民の意見を反映した、より満足度の高い内容を検討する。 また、今後は区として文化財の活用が求められており、その一環として子どもの時から文化財に親しみを持てるような講座を企画・検討する。</p>

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	5,305	5,367	1,114	
支出	直接事業費 (b)	2,145	2,207	713	
	職員人件費 (c)	3,160	3,160	401	
		業務量（人）	0.40	0.40	0.07
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	400	360	19	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	400	360	19
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	5,705	5,727	1,133	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	延べ講師派遣数（回）		
実績数値 (g)	108	110	38
単位あたり区単コスト (a/g)	49,120	48,791	29,316
単位あたりコスト (f/g)	52,824	52,064	29,816

実施状況に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症のため、応募数が令和元年度を下回った。 実施報告書で、本事業が「会の活性化に役だった」と答えた団体が100%と、高評価を得ており、前年度の89%に比べて上昇した。</p>
今後の方向性【継続】	<p>区民・団体にとってより活用しやすい事業とするため、通年の募集としたことにより、利用促進が図られている。本事業の活用を更に増やすための方策を検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	生涯学習人材バンク						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成7年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	1(2)	
事務事業目的	生涯学習に関する指導者等の人材を発掘し活用することにより、区民の生涯にわたる文化・教養活動やスポーツ・レクリエーション活動等の促進及び発展を図り、もって区民が互いに学びあえる体制の確立を図る。										
実施内容	<p>【概要】 様々な分野の学習指導者等の人材を発掘し、活用するシステムをつくることにより、生涯学習の振興を図るために平成7年度から開始した。</p> <p>【活動内容】 ○専門的知識・技能・資格・豊富な経験を有し、ボランティアとして学習指導を希望する方を、区民講師として登録受付を行う。 ○登録者の人材情報を区ホームページ、学び交流館（4館）、生涯学習課で提供する。 ○講師を探している方から情報提供申請があった場合に、登録者の人材情報を提供する。 ○登録者の人材情報は事業実施要綱に基づき3年ごとに更新する。</p> <p>【過去の改善実績】 生涯学習人材バンクの活用の拡大を図るために、個人情報保護に配慮しつつ、区ホームページへ詳細な人材情報を掲載した。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	情報提供数	—	件	目標	100	100	100
				実績	49	39	66
活動	講師活動数	—	件	目標	50	50	50
				実績	5	2	7
活動	情報提供窓口数	—	箇所	目標	5	5	5
				実績	5	5	5
活動	人材バンク登録者数	—	人	目標	220	220	220
				実績	175	163	180
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	796	806	1,186	
支出	直接事業費 (b)	6	16	16	
	職員人件費 (c)	790	790	1,170	
		業務量（人）	0.10	0.10	0.15
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	100	90	143	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	100	90	143	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	896	896	1,329	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	人材バンク登録者数（人）		
実績数値 (g)	175	163	180
単位あたり区単コスト (a/g)	4,549	4,945	6,589
単位あたりコスト (f/g)	5,120	5,497	7,383

実施状況に対する評価	<p>人材バンクに登録する指導者が多様化し、それに伴い学習できる項目数も増加しており、区民が互いに学びあえる体制を確立するとの事業目的は、達成できているものと考えている。課題としては、人材バンクへの指導者登録数と比較して情報提供数は年度により増減があり、指導者の活動機会が得られないことも多いため、更新に合わせて指導者登録を辞退する方も見受けられることが上げられる。</p> <p>また、区民講師の資質向上と講習技術の習得を図るため、研修を行った。</p>
今後の方向性【継続】	<p>人材バンクの指導者数及び利用者数を伸ばすため、区ホームページに加えて広報かつしかを活用する等、区民への浸透に取り組んでいく。また、指導者からの指導内容の報告や利用者からのアンケートの提出等により、指導内容を把握するとともに、区民講師の資質向上と講習技術の習得を図るため、区民講師に対する研修を引き続き行っていく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	成人対象講座				担当部	教育委員会事務局		関係課	—	
					担当課	生涯学習課				
開始年度	昭和25年度				個別計画	—				
根拠法令	社会教育法									
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(6)
事務事業目的	<p>○地域の課題を解決するための糸口を発見し、豊かなまちづくりを担う力を身につける。 ○継続的・系統的な学習意欲をもち、自ら学習を組み立てる力や自己表現力を養う。 ○同じ課題や学習要求をもつ者同士が人間関係を作り、団体活動や地域活動をする契機とする。</p>									
実施内容	<p>様々な事業を通して、区民に学習機会及び社会教育活動の機会を提供する。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わがまち楽習会（0回） ○ふれあいスポーツ事業（3学び交流館で2種目、81回、延参加者数1,362人） ○初心者体験講習会（2学び交流館で4種目、8回、延参加者数62人） ○ロビーコンサート（0回） ○「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業（1回、延参加者数22人） ○団体・サークル支援講座（オンラインと対面併用で3回、対面で1回、計4回、延参加者数114人） 									

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評数/アンケート回答数×100	%	目標	95	95	95
				実績	92	89	89
活動	講座参加者数	全講座の延参加者数	人	目標	3,650	4,200	4,200
				実績	4,278	3,860	1,560
活動	講座数	全講座の実施本数	本	目標	35	35	35
				実績	43	16	9
活動	講座実施回数	全講座の延実施回数	回	目標	160	160	160
				実績	172	148	94
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H30	R1	R2
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	328	212	143
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	12,430	12,100	14,414
支出	直接事業費	(b)	1,461	1,111	752
	職員人件費	(c)	11,297	11,201	13,805
		業務量（人）	1.43	1.43	1.90
	間接費	(d)	0	0	0
	調整額	(e)	1,430	1,260	1,473
	減価償却費		0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	1,430	1,260	1,473
	(控) コスト対象外		0	0	0
トータルコスト	(f=b+c+d+e)	14,188	13,572	16,030	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2	
単位の定義	延べ参加者数（人）			
実績数値	(g)	4,278	3,860	1,560
単位あたり区単コスト	(a/g)	2,906	3,135	9,240
単位あたりコスト	(f/g)	3,317	3,516	10,276

実施状況に対する評価	<p>「わがまち楽習会」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、応募が無かった。十分な感染症対策を実施していることを周知し、応募に繋げる必要がある。</p> <p>「ふれあいスポーツ」と「初心者体験講習会」についても、新型コロナウイルス感染症の影響により参加者が減少した。感染症対策を万全にし、安心して参加できることを周知する必要がある。</p> <p>「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業については、新規に取り組む団体（小・中学校PTA）が増えないことや、継続的に取り組むことが困難になってきている状況から、現行の講座による取組の支援の方法を見直す時期に来ている。各PTAやブロックごとの活動のスケジュールや取組方に寄り添った支援の方法を引き続き検討する必要がある。</p> <p>令和2年度の新規事業である「団体・サークル支援講座」については、オンラインと対面との併用で実施した。参加者アンケートに基づいて、今度の講座内容を検討していく必要がある。</p>
今後の方向性【継続】	<p>新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、さらに多くの区民が学習に参加できるよう、SNS等の様々なツールを活用して周知していくとともに、オンラインによる学習機会を拡充していく。</p> <p>「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業については、共催団体である「子どもを犯罪から守るまちづくり活動推進会」との協議を進め、講座スタイルの見直しや取組団体に寄り添った支援を進めていく。</p> <p>「ふれあいスポーツ事業（成人）」については、参加者の減少や固定化が見受けられるので、事業の見直しを含めて検討していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	地域教育機関連携事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成15年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(5)	
事務事業目的	区内外の教育機関や民間生涯学習関連事業者との連携協力を進め、教育機関等のノウハウを活かした公開講座等を開催し、区民の学習機会の拡充を図る。										
実施内容	<p style="text-align: center;">区内及び近隣の大学等の教育機関や民間団体と連携・協働し、共催で公開講座を実施する。</p> <p>【役割分担】 企画・運営・講師・会場等は区内及び近隣の大学等の教育機関や民間団体。 募集広報等は区で実施。</p> <p>【令和2年度実施概要】 ○東京聖栄大学及び附属調理師専門学校と共催（18年目）5講座（うち、3講座が新型コロナウイルスの影響により中止） ○共栄学園と共催（17年目）5講座（うち、3講座が新型コロナウイルスの影響により中止） ○国際鍼灸専門学校と共催（17年目）1講座 ○公益財団法人日本数学検定協会と共催（14年目）8講座（うち、2講座が新型コロナウイルスの影響により中止） ○科学体験教室（オドロキ科学箱）（新型コロナウイルスの影響により中止）</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	受講者満足度	(満足した受講者数/アンケート回答者数) × 100	%	目標	95	95	95
				実績	95	92	93
活動	講座受講者数	実績報告書	人	目標	3,000	1,000	1,000
				実績	839	750	369
活動	講座実施回数	—	回	目標	23	23	23
				実績	19	17	12
活動	連携教育機関数	—	団体	目標	5	5	5
				実績	4	5	5
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	4,747	4,851	1,053	
支出	直接事業費 (b)	402	506	331	
	職員人件費 (c)	4,345	4,345	722	
		業務量（人）	0.55	0.55	0.10
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	500	495	76	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	500	495	76
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	5,247	5,346	1,129	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	受講者数（人）		
実績数値 (g)	839	750	369
単位あたり区単コスト (a/g)	5,658	6,468	2,854
単位あたりコスト (f/g)	6,254	7,128	3,060

実施状況に対する評価	<p>各講座とも、受講者の満足度が目標値に近い数値となっており、同一テーマに沿った内容で継続性を持った講座の開催や、受講者からのアンケートを基に受講者の希望や興味を勘案した講座を設定するなど、各地域教育機関が主体的・積極的に講座運営に努めている。</p> <p>一方、新型コロナウイルスの影響により中止した講座や、定員を減らした講座もあり、令和2年度受講者数は大幅な減となった。</p>
今後の方向性【継続】	<p>各地域教育機関との協議では、協力体制や会場の確保、開催期間等の関係から、現在の規模以上に拡大するのは困難であるとの回答を得ているため、当面は講座回数は現状のままと考えているが、講座内容についてはオンラインを利用した開催など、多様な実施方法を検討し、引き続き各地域教育機関と連携を取りながら充実を図っていく。</p> <p>また、東京理科大学との連携講座については、平成29年度に葛飾キャンパスに置かれていた生涯学習センターが、神楽坂キャンパスに統合されたことに伴い開催ができていないが、引き続き大学側と協議を行って、令和3年度以降の開催を目指していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	出前教室						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成7年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(3)	
事務事業目的	<p>障害者及び高齢者の学習活動を援助するため、講師が継続的に自宅等を訪問し、学習指導をすることにより、受講者の継続的な学習活動への契機づくりに寄与する。</p>										
実施内容	<p>区内にお住まいの方で、一人で外出困難であり、区が行う講座等への参加が困難な障害者等（個人・団体）に対し、講師を派遣し、受講者の要望する学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習科目 受講者の希望による。 ○募集 通年で募集。受講希望者は、指定された期日までに申請書を提出する。 ○講師派遣回数 年間を通して16回まで。1回2時間を標準とする。1学習科目につき最長2年まで。 ○講師謝礼 1回10,000円を限度 ○自己負担 教材費、施設使用料等 ○講師派遣内容 パソコン、書道、絵画、絵てがみ、フラワーアレンジメント、調理実習など 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	受講者満足率	—	%	目標	95	95	95
				実績	100	100	100
活動	受講（個人・団体）数	—	件	目標	27	27	27
				実績	26	24	6
活動	延べ参加者数	—	人	目標	1,200	1,200	1,200
				実績	1,402	1,198	322
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	820	724	365
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	1,610	1,514	1,590	
支出	直接事業費 (b)	1,640	1,448	730	
	職員人件費 (c)	790	790	1,225	
		業務量（人）	0.10	0.10	0.25
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	100	90	0	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	100	90	0
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	2,530	2,328	1,955	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	延べ参加者数（人）		
実績数値 (g)	1,402	1,198	322
単位あたり区単コスト (a/g)	1,148	1,264	4,938
単位あたりコスト (f/g)	1,805	1,943	6,071

実施状況 に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症のため、受講個人・団体の減少があったが、受講者の満足度は高いため、一人での外出が困難な方や、障害がある方に対する学習活動の契機づくりに寄与するという事業の目的は、概ね達成できている。</p>
今後の方向性 【継続】	<p>令和2年度から、利用者の利便性を図るため、事業内容に類似性が見られる生涯学習援助制度と受付窓口を統合するとともに、受付方法も年2回受付から通年受付へと切り替えた。新型コロナウイルス感染症が流行する中でも本事業を利用する団体もあり、これまでも継続的に活用する団体も多かった。今後は、新たな受講者の掘り起こしを図るとともに、更なる利便性の向上のために、生涯学習援助制度との事業統合等の検討を行う。</p>

事務事業評価表

事務事業名	天文学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(5)	
事務事業目的	さまざまな天文学習の機会を提供し、区民の科学的思考力や正確な宇宙観を育んでいく。										
実施内容	<p>例年、下記の天文に関する講座等を実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて中止した。</p> <p>○プラネタリウムを使った講座 ・星の講演会 外部講師を招いて天文に関する最新情報を紹介する。 6回程度/年</p> <p>○ボランティアによる講座 ・かつしか宙トーク（気軽に聞くことができる入門講座） 15回程度/年 ・おとなのための宇宙塾（宇宙塾ジュニア参加者の親向け講座） 5回程度/年</p> <p>○かつしか星空散歩他 博物館天文ボランティアによる観望会 ・かつしか星空散歩（毎週金・土） ・移動観望会（区内小学校、お花茶屋町会からの依頼を受けて実施）</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評回答数/アンケート回収数×100	%	目標	91	91	91
				実績	90	91	90
活動	講座参加者数	—	人	目標	4,000	4,000	4,000
				実績	3,198	3,553	56
活動	講座実施回数	—	回	目標	110	110	110
				実績	104	98	4
活動	講座事業種類数	—	種	目標	10	10	10
				実績	6	4	2
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	511	239	38
	一般財源 (a)	5,559	6,365	5,547	
支出	直接事業費 (b)	1,340	617	45	
	職員人件費 (c)	3,160	3,950	3,510	
		業務量（人）	0.40	0.50	0.45
	間接費 (d)	1,570	2,037	2,030	
	調整額 (e)	400	450	428	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	400	450	428	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	6,470	7,054	6,013	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	3,198	3,553	56
単位あたり区単コスト (a/g)	1,738	1,791	99,054
単位あたりコスト (f/g)	2,023	1,985	107,375

実施状況に対する評価	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため7月3日まで休館した。再開後も「星の講演会」は、プラネタリウムの定員が制限されていること、開催時間が1時間半と長いことなどから、令和2年度は開催を見合わせた。また、天文ボランティアによる「かつしか星空散歩」などの活動も、郷土分野を含めた博物館ボランティア全体が活動を休止していることから、全ての活動を見合わせた。
今後の方向性【継続】	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、参加者やボランティアの安全確保を最優先に、実施可能な事業から順次再開していく。

事務事業評価表

事務事業名	博物館ホームページの運営						担当部	教育委員会事務局	関係課	—
							担当課	生涯学習課		
開始年度	平成22年度						個別計画	—		
根拠法令	—									
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(13)
事務事業目的	<p>区民等にホームページを活用して博物館の情報を発信し、来館行動へと導くとともに、ホームページの1コンテンツ「デジタルアーカイブ」で区民等が手軽に収蔵資料の情報を得られるようにする。</p>									
実施内容	<p>郷土と天文の博物館ホームページシステムのリプレースを実施し、令和元年12月に博物館ホームページを開設した。 収蔵資料（需要が見込まれるものや展示室で公開されていないもの、当館の強み（天文分野）、展示会の内容に関連したもの等）の公開や、特別展・企画展、各種講座、プラネタリウムの情報など、博物館の活動状況の情報を発信している。 また、博物館ホームページでは情報発信だけに重点を置かず、こども向けコンテンツ（博物館クイズやパズルなど）や博物館ブログなど、楽しみながら郷土かつしかや天文について学べ、博物館にも興味を持ってもらえるようなコンテンツを随時追加している。</p> <p>【博物館ホームページの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の基本情報（開館日時、利用料金、アクセス等） ・常設展示など館内施設の案内・解説 ・郷土・天文の各分野のイベント情報 ・プラネタリウム番組の紹介・投映スケジュール ・特別展・企画展の紹介 ・指定・登録文化財や埋蔵文化財、葛飾柴又の文化的景観の情報 ・デジタルアーカイブ(収蔵資料の公開) ・こども博物館(こども向けコンテンツ。博物館クイズやパズル) ・旧教育資料館の情報 ・博物館ブログ ・博物館の刊行物の紹介、実施事業報告、広報資料提供 ・ボランティアの活動内容紹介と募集概要 <p>ホームページの公開開始：平成23年4月1日 リプレース期間：令和元年6月～12月 新ホームページ本稼働：令和元年12月19日</p>									

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	ホームページへのアクセス回数(閲覧ページ数)	博物館開設のホームページ閲覧回数(閲覧ページ数)	回	目標	600,000	600,000	600,000
				実績	593,291	667,922	432,840
活動	コンテンツの追加	こども博物館及び博物館ブログ等コンテンツの更新回数	回	目標	—	3	10
				実績	—	2	29
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H30	R1	R2
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	5,934	47,217	7,514
支出	直接事業費	(b)	1,868	42,624	4,659
	職員人件費	(c)	1,580	1,975	245
		業務量（人）		0.20	0.25
	間接費	(d)	2,486	2,618	2,610
	調整額	(e)	200	225	0
	減価償却費		0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	200	225	0
		(控) コスト対象外	0	0	0
トータルコスト	(f=b+c+d+e)	6,134	47,442	7,514	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2	
単位の定義	ホームページへのアクセス回数（回）			
実績数値	(g)	593,291	667,922	432,840
単位あたり区単コスト	(a/g)	10	71	17
単位あたりコスト	(f/g)	10	71	17

実施状況に対する評価	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、講座を中止したこと等によりアクセス数が減少した。一方で、来館できなくとも博物館とつながれるよう、ブログや子供向けページの充実を図った。
今後の方向性【改善】	新型コロナウイルス対策として、ホームページを活用した情報発信の強化を進める。

事務事業評価表

事務事業名	プラネタリウム番組制作						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(7)	
事務事業目的	プラネタリウムを活用し、区民等に最新の科学・宇宙の情報を発信し、科学や宇宙について「知る・学ぶ・考える・体験する」面白さを実感していただき、科学教育の促進を図る。										
実施内容	<p>特徴は「他では見られないオリジナル番組を制作していること」、「天文職員による生の解説で放映していること」、「プラネタリウム機器の機能を生かし、最新の宇宙の情報を臨場感のある映像で紹介していること」である。</p> <p>制作にあたっては、内外の天文研究機関や宇宙開発機関と連携して最新のデータを取り入れるほか、オリジナルの映像制作にも取り組んでいる。</p> <p>一般向けの「季節の番組」のほか、「こども番組」、「プラネタリウムコンサート」、小・中学校向けの「学習番組」、幼稚園・保育園児向けの「幼児番組」などを制作しており、生解説により観覧者に合わせたり最新情報を取り入れたりしながら放映している。</p> <p>【過去の実績等】</p> <p>平成21年度：ハワイのイミロア天文学センターとプラネタリウム番組を共同制作した。</p> <p>平成24年度：国際プラネタリウム協会総会併催イベント「ドームフェスト2012」において、「シンフォニー・オブ・ユニバース第3番」が最終選考作品に選出され、会場で放映された。</p> <p>平成27年度：全国7プラネタリウムと共同で、国際宇宙ステーション(ISS)内の油井宇宙飛行士とライブ交信事業を実施した。</p> <p>令和元年度：国際研究チームによるブラックホールの撮影成功のニュースを受け、発表翌日に海外からの素材やデータに基づく解説映像を制作、NHKの全国ニュースで報道された。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	観覧者満足度	番組終了後に実施しているアンケートの結果(好評回答数/アンケート回収数×100)	%	目標	95	95	95
				実績	85	90	—
成果	プラネタリウム観覧者数(学習放映を含む)	通常番組、学習番組、幼児番組、企画番組の観覧者	人	目標	39,000	45,000	45,000
				実績	42,592	43,360	3,486
活動	1年間のプラネタリウム番組の自主制作数	—	本	目標	10	10	10
				実績	5	7	2
活動	1年間の放映数	—	回	目標	600	930	930
				実績	816	914	305
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	6,640	6,223	783
	一般財源 (a)	21,514	35,918	25,115	
支出	直接事業費 (b)	17,018	29,255	13,690	
	職員人件費 (c)	2,765	3,555	3,510	
		業務量 (人)	0.35	0.45	0.45
	間接費 (d)	8,371	9,331	8,698	
	調整額 (e)	350	405	428	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	350	405	428	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	28,504	42,546	26,326	

単位当たりコスト (円)	H30	R1	R2
単位の定義	プラネタリウム観覧者数(人)		
実績数値 (g)	42,592	43,360	3,486
単位あたり区単コスト (a/g)	505	828	7,205
単位あたりコスト (f/g)	669	981	7,552

実施状況に対する評価	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため7月3日まで休館し、7月4日以降は定員・上映回数を大幅に減らし、番組の時間を短縮して上映を行った。また、学習投映、幼稚園・保育園向け投映、団体投映は全て中止した。</p> <p>上映したのは過去に制作した番組の短縮版であるが、修正が容易なオリジナル番組の特徴を活かし、はやぶさ2の帰還やアメリカの火星探査機の着陸に合わせて情報や映像を差し替えるなどの対応を行った。</p> <p>なお、感染防止のためアンケートを中止したため、参加者満足度を測定することはできなかった。</p>
今後の方向性【継続】	<p>引き続き利用者の安全確保を最優先しながら、オリジナル番組・生解説の良さを活かした番組上映を行っていく。</p> <p>また、令和2年度は新規に制作した番組を上映することができなかったが、今後の状況緩和に合わせて、新番組を順次投映し、利用者の増大を図る。なお、新たな利用者の開拓を図るため、プラネタリウムの全天周スクリーンを生かし、天文関係以外の新たなコンテンツの放映を検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	民俗学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(4)	
事務事業目的	葛飾区の先人たちによって生まれ伝えられてきた生活の知恵や暮らしを支える「わざ」、そしてその「わざ」を支えてきた風土や環境について学び、郷土愛の醸成に繋げる。										
実施内容	<p>○民俗文化（昭和20年代まで、区民の暮らしを支えてきた農業と農村で育まれてきた食文化、川漁師等の産業、年中行事等）を総合的な関連性を持って体験的に学ぶ。 ・農村の文化を学ぶ ・川漁を学ぶ 等</p> <p>○千葉県流山市、福島県塙町等で、かつては葛飾区内で見ることができた自然環境、葛飾区内で行われていた農業・漁業や民俗行事等の体験的に学習すると同時に、農村との交流を図る。 ・川漁師ファンクラブ ・日本酒の文化を学ぶ 等</p> <p>○学芸員や専門調査員を中心に郷土葛飾の地域史（民俗）に関する資料調査や研究を進め、その成果を刊行物や展示を通じて広く区民に公開する。</p> <p>○葛飾探検団（活動内容：区内の失われつつある風景などの記録・展示）</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評回答数/アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	95	95	80
活動	講座参加者数	—	人	目標	1,200	1,200	1,200
				実績	1,002	1,296	203
活動	講座実施回数	—	回	目標	35	35	35
				実績	23	23	7
活動	講座事業種類数	—	種	目標	8	8	8
				実績	6	7	4
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	485	388	39
	一般財源 (a)	8,693	7,091	5,516	
支出	直接事業費 (b)	2,737	2,074	1,510	
	職員人件費 (c)	4,740	3,950	2,595	
		業務量（人）	0.60	0.50	0.50
	間接費 (d)	1,701	1,455	1,450	
	調整額 (e)	600	450	48	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	600	450	48
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	9,778	7,929	5,603	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	1,002	1,296	203
単位あたり区単コスト (a/g)	8,676	5,471	27,172
単位あたりコスト (f/g)	9,758	6,118	27,601

実施状況に対する評価	<p>参加者数の減については新型コロナウイルスの影響によるものである。民俗学講座は当館事業の中でも、講座数・参加者数が多く、昔ながらの農法・漁法・食文化を後世に伝える役割として重要であり、一部講座はリピーターも多い。なお、体験型講座が多く、主に屋外で実施するため、天候によって実施回数・参加者数に影響が出る。</p>
今後の方向性【継続】	<p>最小限の職員で成果を高めるため、当館の特徴であるボランティア団体との協働による講座実施が重要であると考えられる。現状として、ボランティア団体単独での講座実施は困難であるが、中長期的に目標を立て、ボランティア団体が主体となって事業を企画・立案から運営までできるよう活動を支援し、講座実施数や参加者数の増加に繋げられるよう検討を行う。また、博物館をフィールドとしてボランティアが行ってきた葛飾区の民俗や歴史に基づいた体験学習事業を今後区民向けに開放していくことを検討していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	リーダー育成等						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	昭和50年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(10)	
事務事業目的	<p>同和地区出身者と区民の交流を図り、人権の理解を深めるため交流事業を実施する。また、部落解放同盟東京都連合会葛飾支部の活動に対して助成することにより、同和地区出身者が交流を深め人権意識を高める。</p>										
実施内容	<p>○同和地区出身者と区民の交流事業 子どもキャンプ（2泊3日）、女性子どもレクリエーション（バスレクリエーション日帰り旅行）、子どもまつりを開催する。</p> <p>○補助金 部落解放同盟東京都連合会葛飾支部の活動に対して、事業経費の2分の1を助成する。（平成30年度81千円） 教養講座（ろうけつ染め）が平成25年度をもって廃止されたため、令和元年度現在の対象事業は、 ①子ども会・女性・多文化地域交流活動助成 ②青年学習研究交流活動助成 の2つである。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	事業参加者数	—	人	目標	750	750	300
				実績	780	715	351
活動	事業実施回数	—	回	目標	40	40	30
				実績	39	42	42
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	5,733	4,992	3,201	
支出	直接事業費 (b)	1,388	1,437	81	
	職員人件費 (c)	4,345	3,555	3,120	
		業務量（人）	0.55	0.45	0.40
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	300	405	380	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	300	405	380	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	6,033	5,397	3,581	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	事業参加者数（人）		
実績数値 (g)	780	715	351
単位あたり区単コスト (a/g)	7,350	6,982	9,120
単位あたりコスト (f/g)	7,735	7,548	10,202

実施状況に対する評価	<p>部落解放同盟東京都連合会葛飾支部との共催事業として、定期的な会合も含めて意見交換を行いながら実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業が多かったため、参加者数及び実施回数は減となった。</p> <p>地域住民を対象とした事業の多くは中止となったが、事業実施の有無について多くの問い合わせが寄せられていたこともあり、人権問題の理解を深めるために事業を実施するとの葛飾支部の理念が、地域に浸透していることが伺えた。</p>
今後の方向性【継続】	<p>地域住民及び同和地区出身者などが、子どもキャンプや子どもまつり等での交流を行うことで、相互理解や人権意識の高揚に取り組んできた。今後も、地域住民と同和地区出身者との交流を深めていくため、活動の中心を担うリーダーの育成に努める必要がある。</p> <p>なお事業の実施にあたっては、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら開催するように取り組んでいく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	歴史学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(2)	
事務事業目的	葛飾の歩んできた姿や当時の社会状況を学ぶことにより、正確な歴史観を身につけ、地域史への興味・関心を高める。										
実施内容	<p>○葛飾区の歴史に関する講座 水害等の災害、地形、花菖蒲、各種文化財に関する講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史教養講座 1回（令和2年度は中止） ・鉄道史講座 1回（令和2年度は中止） ・環境学講座 1回（令和2年度は中止） ・河川環境学講座 1回（令和2年度は中止） ・古文書入門講座 1回 <p>○歴史資料（文書等の紙資料）の整理・保存・管理</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	参加者満足度	好評回答数／アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	95	95	—
活動	講座参加者数	歴史講座等への参加者数	人	目標	500	500	500
				実績	227	114	13
活動	講座実施回数	—	回	目標	10	10	10
				実績	4	4	1
活動	講座事業種類数	—	種	目標	6	6	6
				実績	4	4	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	429	193	40
	一般財源 (a)	6,684	5,648	9,221	
支出	直接事業費 (b)	2,255	1,940	1,771	
	職員人件費 (c)	3,550	3,610	5,460	
		業務量（人）	0.70	0.70	0.70
	間接費 (d)	1,308	291	2,030	
	調整額 (e)	100	90	665	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	100	90	665	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	7,213	5,931	9,926	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	227	114	13
単位あたり区単コスト (a/g)	29,445	49,544	709,308
単位あたりコスト (f/g)	31,775	52,026	763,538

実施状況に対する評価	参加者数の減については新型コロナウイルスの影響によるものであるが、目標値に向け増加しているとは言えない状況である。 内容については、リピーターを獲得している状況であるが、新規参加者数が少ない状況であり、これまでと異なるテーマや実施方法が必要であると考えられる。
今後の方向性【改善】	好評を得ている既存の講座を継続して実施するとともに、中世から近現代を含めた様々な時代から、区民の関心の高いテーマを検討し、新規参加者を取り込む。広く一般区民に葛飾区の歴史に興味を持ってもらうきっかけとなる事業を展開する一環として、講演会の実施や、企画展等での解説、博物館WEBサイトの活用を検討する。また、座学形式だけではなく、実際の現場で学べるような講座や、連続参加することでより知識が深まるような実施方法を検討する。

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）										
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H30	R1	R2	単位	H30	R1	R2							
事業内容					H30	R1	R2										
維持管理（郷土と天文の博物館）	教育委員会事務局		—	収入	特定財源	3,818	3,258	809	開館日数	日	291	268	221				
	生涯学習課				一般財源	75,595	93,137	85,664									
一般	8	6	2														
施設の維持管理事務 ○施設の維持管理に係る委託 ・総合管理業務等委託 ・エレベーター保守点検委託 ・設備遠方監視 ・空調設備保守点検委託 ・機械警備委託 ・自家用電気工作物保安全管理委託 ・プラネタリウム保守点検委託 ・天体ドーム保守点検委託 ・天体・太陽望遠鏡保守点検委託 等 ○施設・設備修繕事務 ○電気・ガス・水道の光熱水費支払い ○その他 予算、決算、会計、広報、レファレンス、資料貸出し等、館の管理運営に関する事務				支出	事業費	69,933	92,445	83,353	施設修繕回数	回	21	22	9				
					人件費	9,480	3,950	3,120									
					業務量(人)	1.20	0.50	0.40									
					間接費	0	0	0									
					調整額	48,927	48,177	48,107									
	トータルコスト(a)	128,340	144,572	134,580													
	単位当たりコスト(円) (a/b)	441,031	539,448	608,959													

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）								
				担当課			H30	R1	R2	単位	H30	R1	R2						
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）																			
事業内容																			
寄贈・収集資料整理				教育委員会事務局		—	収入	特定財源	0	0	0	収蔵資料の累計点数	点	207,175	208,156	209,386			
				生涯学習課				一般財源	5,439	5,722	7,623								
一般	8	6	2	2(12)		支出	事業費	3,046	1,504	1,804	収蔵資料整理件数	件	32,054	38,050	10,708				
							人件費	1,085	1,890	2,195									
<p>○資料収集</p> <p>博物館が調査・研究の対象とする地域史（考古・歴史・民俗・自然等）の有形・無形の諸資料や天文に関する最新情報や当館で観測された天体現象の記録を収集し、資料の形状や性質に応じた適切な保管をする。</p> <p>【主な収蔵資料】</p> <p>考古：葛西城跡等区内出土遺物、窯業等産業関連資料等 歴史：堀切菖蒲園関連浮世絵、区郷土資料室移管及び寄贈古文書、帝釈人車鉄道関係、旧教育資料館収蔵資料、旧家所蔵資料、戦時生活資料 民俗：葛飾区旧景写真、郷土玩具、農機具、工具、生活道具 天文：館撮影天文画像、スライド</p> <p>○聞き取り調査</p> <p>資料収集聞き取り調査については随時実施</p>												業務量(人)	0.20	0.30	0.30				
												間接費	1,308	2,328	3,624				
												調整額	50	135	238				
						トータルコスト (a)						5,489	5,857	7,861					
						単位当たりコスト(円) (a/b)						26	28	38	—				

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）					
				担当課												
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）																
事業内容																
							H30	R1	R2							
											単位	H30	R1	R2		
工芸教室				教育委員会事務局		—	収入	特定財源	0	0	0	講座参加者数	人	216	204	148
				生涯学習課				一般財源	779	779	774					
一般	8	6	1	2(9)		支出	事業費	384	384	384	講座実施回数	回	24	24	24	
							人件費	395	395	390						
部落解放同盟東京都連合会との共催により、毎月2回、木曜日（原則として第2、第4）に同和対策仮奥戸集会所に工芸指導者と助手の2人を講師として招き、事業を実施している（年24回実施）。						トータルコスト (a)	業務量(人)	0.05	0.05	0.05						
							間接費	0	0	0						
							調整額	50	45	48						
						単位当たり コスト(円) (a/b)	3,838	4,039	5,551							

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）						
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H30	R1	R2	単位	H30	R1	R2			
事業内容													
社会教育委員の会議の運営	教育委員会事務局		—	収入	特定財源	0	0	0	会議開催数	回	12	12	6
	生涯学習課				一般財源	4,023	4,027	4,476					
一般	8	6	1	1(1)									
【概要】 社会教育法第15条に基づき、平成8年度に条例設置した。委員数8人（条例定数10人以内）。任期2年。 【主な職務】 (1) 社会教育に関し教育委員会に助言するため、社会教育に関する諸計画の立案、意見具申、調査研究を行う。 (2) 社会教育関係団体に対する補助金の交付について意見を述べる。 【活動内容】 令和2年度は6回の会議（うち1回は正副議長の会議）を開催し、協議を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で十分協議ができなかったため、予定していた提言書をまとめることができなかった。				支出	事業費	863	867	521					
					人件費	3,160	3,160	3,955					
					業務量(人)	0.40	0.40	0.60					
					間接費	0	0	0					
					調整額	400	360	333					
				トータルコスト (a)	4,423	4,387	4,809						
				単位当たり コスト(円) (a/b)	368,583	365,583	801,417						

施策番号	2102	成果指標					
		指標名	単位	区分	H30	R1	R2
施策名	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします	最近1年間に葛飾区内の図書サービスを利用したことのある区民の割合	%	目標	35.0	35.0	35.0
				実績	34.0	31.7	27.3
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

		事務事業	担当課	区分	頁
	計画	図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置	中央図書館	◎	1289
		オンラインサービス（ICTを活用した図書館サービス）	中央図書館	◎	1291
		子ども読書活動推進	中央図書館	◎	1293
		読書活動啓発事業	中央図書館	◎	1295
		図書館報等印刷	中央図書館	◎	1297
		図書館ボランティア育成事業	中央図書館	◎	1299
		図書資料等提供	中央図書館	◎	1301
		維持管理（図書館）	中央図書館	○	1303
		図書館業務委託（中央図書館カウンター業務）	中央図書館	○	1304

※「計画」は、後期実施計画に位置付けている事務事業であることを表します。

※「◎」は、事務事業評価表を作成した事務事業であることを表します。

※「○」は、事務事業一覧表を作成した事務事業であることを表します。

事務事業評価表

事務事業名	図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	平成27年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(11)	
事務事業目的	<p>図書館利用者が、より便利で使いやすい図書館機能の充実を図るため、「図書返却ポスト」や「サービスカウンター」を設置する。</p>										
実施内容	<p>【概要】 図書館利用者の利便性を図るため、図書館へ行かずに借りた図書を返却できる「図書返却ポスト」を設置する。また、図書サービスの一部（予約本等の貸出・返却）を実施する「サービスカウンター」を整備し、より便利で使いやすい図書館機能を充実する。</p> <p>【活動実績】</p> <p>①図書返却ポスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、「新小岩駅東北広場」に設置した。 ・平成28年度は、「堀切地区センター」「青砥駅高架下公共広場」「新柴又駅前」に設置した。 ・平成29年度は、「四ツ木駅前」の設置に向け、準備した。 ・平成30年度は、「四ツ木駅前」に設置し、「京成高砂駅前」の設置に向け、準備した。 ・平成31年度（令和元年度）は、「京成高砂駅前」に設置した。 ・令和2年度は、「亀有駅前」の設置に向け、検討した。 <p>②図書サービスカウンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、亀有リリオ館7階での開設に向け、検討した。 ・平成29年度は、亀有リリオ館7階での開設に向け、準備した。 ・平成30年度は、亀有リリオ館7階に開設した。 ・令和2年度は、新小岩駅南口ビルでの開設に向け、検討した。 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	図書返却ポストの利用数	図書返却ポストへ返却された資料冊数	冊	目標	117,900	120,000	130,000
				実績	128,058	167,037	131,956
成果	図書サービスカウンター利用数	予約資料の貸出点数	点	目標	16,600	25,000	25,000
				実績	30,681	37,835	46,556
活動	候補地の調査・選定・検討・検証	—	—	目標	調査・選定・検討・検証	調査・選定・検討・検証	調査・選定・検討・検証
				実績	開設	開設	調査・選定・検討・検証
活動	図書返却ポストの設置	—	箇所	目標	2	—	—
				実績	1	1	0
活動	図書サービスカウンターの設置	—	箇所	目標	1	—	—
				実績	1	0	0
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	30,217	27,331	27,405	
支出	直接事業費 (b)	26,267	24,961	24,285	
	職員人件費 (c)	3,950	2,370	3,120	
		業務量（人）	0.50	0.30	0.40
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	500	270	380	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	500	270	380	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	30,717	27,601	27,785	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	図書返却ポスト及び図書サービスカウンター設置数		
実績数値 (g)	2	1	0
単位あたり区単コスト (a/g)	15,108,500	27,331,000	—
単位あたりコスト (f/g)	15,358,500	27,601,000	—

実施状況に対する評価	<p>【図書サービスカウンター】 令和2年度は、亀有図書館改修工事による休館（8月31日から1月14日まで）のため、サービスカウンターの利用が増加したと考えられる。</p> <p>【図書返却ポスト】 「図書返却ポストへ返却された資料冊数」は、令和2年度の貸出数の減少に伴い、前年度を下回っている。</p>
今後の方向性【継続】	<p>【図書サービスカウンター】 （仮称）新小岩駅南口ビル内に新たな図書サービスカウンターを設置。（令和5年度予定）</p> <p>【図書返却ポスト】 平成26年度から設置を進め、一定数の整備を行った。 今後も新たな設置に向け検討は進めるものの、現状の図書返却ポストの更なる利用率向上に向け、図書館HPや配布物等を活用し、周知活動を図る。</p>

事務事業評価表

事務事業名	オンラインサービス（ICTを活用した図書館サービス）						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和63年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(6)	
事務事業目的	<p>利用者が、開館時間・場所にとらわれず図書館の資料を検索・予約できる。また、貸出・返却手続きの簡素化を図り、利便性を向上させる。</p>										
実施内容	<p>【概要】 区民に図書館サービスを広く周知し、区民の図書館利用における利便性を向上するために図書館のICT化を実施する。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年6月葛飾区立図書館全館オンラインサービス開始 ・平成16年1月葛飾区立図書館のホームページ及びインターネットによる蔵書検索・予約を開始。平成18年8月、平成21年9月にホームページをリニューアル。 ・平成19年利用者が使用するインターネット利用可能なパソコンを中央図書館及び地域図書館導入。 ・平成21年9月に全館ICTタグ、自動貸出機（地区図書館を除く）、中央図書館に自動返却仕分機、予約棚（セルフ予約受取システム）を導入。メールアドレス登録者が希望すれば返却期限のお知らせなどをメールサービスするなど、利用者の利便性を高める。 ・平成21年10月、中央図書館に座席管理システムを導入。平成26年7月機器更改。 ・平成25年度地域資料をデジタル化し、ホームページからも検索・一部閲覧可能とする。 ・平成27年6月 葛飾区図書館業務システムの機器更新。 ・平成27年6月 中央図書館公衆無線LANの導入（個人閲覧席等）。 ・平成28年10月 ホームページに「読書記録」・「お気に入り登録」機能を追加。 ・令和2年6月 図書館業務システムリプレイス 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	インターネット利用による予約率	インターネット予約数÷予約件数×100	%	目標	80	81	83
				実績	80	82	86
成果	自動貸出機の利用率	自動貸出機貸出冊数÷総貸出冊数×100	%	目標	64	65	65
				実績	65	64	56
活動	新規インターネットサービス利用登録者数	実績数	人	目標	21,000	18,000	20,000
				実績	17,588	16,566	13,850
活動	図書館ホームページ・データベースへのアクセス件数	実績数	件	目標	2,900,000	2,600,000	2,600,000
				実績	2,537,198	2,221,446	2,774,876
活動	予約確認連絡における、電話連絡以外の連絡方法の割合	予約確認連絡が電話連絡以外の人÷予約件数×100	%	目標	92	93	93
				実績	92	92	94
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	111,044	187,868	149,524	
支出	直接事業費 (b)	99,187	174,824	136,469	
	職員人件費 (c)	11,060	12,245	12,090	
		業務量（人）	1.40	1.55	1.55
	間接費 (d)	797	799	965	
	調整額 (e)	1,400	1,395	1,473	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	1,400	1,395	1,473	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	112,444	189,263	150,997	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	登録者(団体)数（人）		
実績数値 (g)	222,625	219,832	194,736
単位あたり区単コスト (a/g)	499	855	768
単位あたりコスト (f/g)	505	861	775

実施状況に対する評価	令和2年6月に図書館システムのリプレースを行い、図書館ホームページをリニューアルした結果、図書館ホームページへのアクセス件数が上昇した。一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新規インターネットサービス利用登録者数は例年を下回る結果となった。
今後の方向性【改善】	令和3年9月の電子書籍サービス開始に合わせ、オンラインによる利用登録も開始することにより、来館しなくても電子書籍などの図書館サービスが利用できるよう、オンラインサービスの充実を図っていく。

事務事業評価表

事務事業名	子ども読書活動推進						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	平成17年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(10)	
事務事業目的	小・中学校、幼稚園、保育園、保健センター、児童館等と連携しながら、子どもたちが本に親しみをもち、自主的に読書活動を行えるようにする。										
実施内容	<p>【概要】 葛飾区在住の乳幼児から中学生までの発達期の子どもたちに対して、保育園・幼稚園・学校や児童館・保健センター等関係部署と連携して、各世代に、年齢に合わせて図書館が作成している推薦図書の紹介を行うなど、読書活動への機会の提供する。</p> <p>【活動内容】 ○ブックスタート事業 保健センター等で行う乳幼児健康診査(3～4か月)でブックスタートパック(絵本1冊・アドバイス・ブックレット・図書リスト・図書館館案内等)を手渡し、絵本の読み聞かせを行う。(平成17年度から実施)。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で乳幼児健康診査が小児科等での個別健診に変更になったため、保健センターから送付される乳幼児健診のお知らせに引換券を同封し、図書館で手渡す事に一時的に変更となっている。 ○セカンドブック事業 3歳児を対象として、保健センターから送付される3歳の「3歳児健診のお知らせ」に引換券を同封し、図書館で絵本1冊とリーフレット、図書館の行事案内を手渡す。 (平成25年度から実施) ○かつしかっ子ブック事業 小学校1年生及び中学校1年生を対象に、児童・生徒が推薦図書「かつしかっ子ブック」から希望した図書を、学校等を経由して配布する。(平成27年度から実施) ○学校支援団体図書配送 調べ学習用の図書を学校支援図書として各学校へ配送する。 ○読書手帳の配布 ブックスタート事業及びセカンドブック事業対象乳幼児、かつしかっ子ブック事業の小学校1年生にお子さんに読み聞かせをした記録や児童が読書をした記録を書き込みすることができる読書手帳を配布する。(平成29年度から実施)また、令和元年度より、他年齢の子にも図書館で配布している。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	小学校4年生の平均読書数	区学習意識調査	冊	目標	10	10	10
				実績	9	9	10
活動	学級配送コンテナ数	—	箱	目標	1,500	750	750
				実績	519	481	467
活動	0～2歳児の貸出数	ブックスタート対象者(3～4か月)から2歳の乳幼児への貸出数	冊	目標	—	—	20,500
				実績	26,926	22,535	30,632
活動	3～5歳児の貸出数	セカンドブック対象者(3歳)から就学前の幼児への貸出数	冊	目標	—	—	90,500
				実績	99,955	99,460	102,570
活動	6～15歳の貸出数	かつしかっ子ブック対象者(小1・中1)を含めた小～中学生への貸出数	冊	目標	—	—	335,000
				実績	399,558	368,256	287,525

コスト内訳 (千円)		H30	R1	R2	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	48,893	48,254	47,991	
支出	直接事業費 (b)	14,133	14,294	14,841	
	職員人件費 (c)	34,760	33,960	33,150	
		業務量 (人)	4.40	4.40	4.25
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	4,400	3,735	4,038	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	4,400	3,735	4,038
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	53,293	51,989	52,029	

単位当たりコスト (円)	H30	R1	R2
単位の定義	配布数 (ブックスタート・セカンドブック・かつしかっ子ブック) 件		
実績数値 (g)	12,483	11,987	11,010
単位あたり区単コスト (a/g)	3,917	4,026	4,359
単位あたりコスト (f/g)	4,269	4,337	4,726

実施状況に対する評価	<p>保育園や乳幼児の各種健診を行う保健センター等の関係部署と連携し、乳幼児の保護者等へ読書の楽しさ、読書環境の大切さをブックスタート事業・セカンドブック事業を通して伝えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年度の保健センターでの乳幼児健診が中止となり、小児科等での健診に変更となったことから、親子で読んでほしい本の提供も図書館での手渡しへと変更になったものの、乳幼児健診の保護者向けの通知に本の引換券を同封するとともに、図書館での事業の際に読み聞かせや利用案内を入念に行うことにより読書推進活動が図られ、0～5歳児の貸出数については増加傾向となった。</p> <p>また、小・中学生（6～15歳）については、ブックスタート・セカンドブックに続き、小1・中1という節目の年齢を対象としたかつしかっ子ブック事業で読書推進を支援しているところだが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で休館や業務縮小・行手中止を受け貸出数が減少しており、学級配送コンテナ数についても亀有図書館改修工事や感染対策としての図書館の休館の影響により、目標を下回る結果となった。</p> <p>一方で、小学校4年生の読書冊数についてはステイホーム期間による影響によるものか、1か月当たりの読書数が10.3と微増している。</p>
今後の方向性【改善】	<p>引き続き各種関係部署と連携しつつ、保護者等へ読書活動の必要性を働きかける。また、配布対象外となっている年齢の子どもに対しても読書手帳を配布し、より読書に関心を持ってもらうようなPR活動を充実させる。</p> <p>令和2年度当初、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う乳児健診の委託により、ブックスタート事業は保健センター等での配布から引換券による図書館での配布に切替えた。今後もブックスタート事業及びセカンドブック事業の保護者へのPRを行い、図書館来館時における0歳からの利用カード登録及び図書館利用案内の周知、イベントへの参加促進を行うことにより、利用登録数や貸出数の増加を図る。また、令和3年度の電子書籍導入に合わせ、公立の中学校1年生を訪問し、電子書籍を利用するためのID・パスワード及びその利用方法の説明を行う事業を実施することで、学校から貸与されたタブレットを活用した読書推進活動事業の拡充を図っていく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	読書活動啓発事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和42年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(8)	
事務事業目的	多様な読書活動を提供し参加者数を増やすことにより、図書館利用者数及び図書資料貸出数の増につなげる。										
実施内容	<p>【概要】 本に興味を持ち、読書活動を始めるきっかけづくりを目的として、幼児から大人まで、障害のある方、外国人など、誰もが参加できる事業を実施する。</p> <p>【活動内容】 ①講演会 ②おはなし会 ③絵本読みの会 ④園招待・訪問 ⑤学級招待・訪問・図書館見学 ⑥職場体験 ⑦一日図書館員（子ども司書認定）⑧子ども読書の日イベント 削除R2中止⑨小さい子向けおはなし会 ⑩わらべうたの会 ⑪外国語のおはなし会 ⑫バリアフリー（手話付き）おはなし会 ⑬児童映画会 等。</p> <p>【過去の改善実績】 子どもの読書活動推進のため、事業の実施回数を増やすとともに、PR活動の拡大に努め、参加者の増へとつなげた。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	年間図書資料貸出数	—	冊	目標	3,400,000	3,400,000	3,300,000
				実績	3,126,085	2,996,361	2,471,788
活動	年間図書館来館者数	—	人	目標	3,100,000	3,100,000	2,900,000
				実績	2,779,825	2,640,055	1,754,423
活動	年間行事参加者数 (講演会・映画会・子ども映画会等)	—	人	目標	70,000	70,000	70,000
				実績	68,582	59,732	29,906
活動	年間行事開催数	—	回	目標	2,800	2,800	2,800
				実績	2,699	2,430	1,028
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H30	R1	R2	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	72,928	72,546	73,572	
支出	直接事業費 (b)	1,170	2,037	1,176	
	職員人件費 (c)	58,489	57,198	56,316	
		業務量（人）	7.60	7.54	7.22
	間接費 (d)	13,269	13,311	16,080	
	調整額 (e)	7,130	6,120	6,859	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	7,130	6,120	6,859	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	80,058	78,666	80,431	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2
単位の定義	延べ参加者数（各行事）（人）		
実績数値 (g)	68,582	59,732	29,906
単位あたり区単コスト (a/g)	1,063	1,215	2,460
単位あたりコスト (f/g)	1,167	1,317	2,689

実施状況に対する評価	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、図書館イベントの中止や図書館利用の制限・休館を余儀なくされた結果、各指標について目標値を大きく下回る結果となっている。
今後の方向性【継続】	図書館アンケートやイベント等のアンケートをもとに、区民のニーズを分析し、イベントの実施方法を工夫すべく業務改善を重ねていく。 また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント1回あたりの定員が減少する中、今後も新しい生活様式を見据えて非接触型のイベント内容を検討していくとともに、実施回数の増加やPR活動の拡大などに努め、イベントへの参加者数の増加を図っていく。

事務事業評価表

事務事業名	図書館報等印刷						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和43年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(7)	
事務事業目的	本や図書館行事等を紹介することで、読書の意欲を高め、一層の図書館利用（来館・貸出）を促す。										
実施内容	<p>【概要】 図書館をPRするとともに、利用を促進するための配布物を作成し、来館者数や新規登録者数の増につなげる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 図書館案内 としょかんだより（一般向け） 2 子どもたちの成長段階や各年代に合った推薦リストの配布 「むぎわらぼうし」（小学生向け）、「ドッグイアーズ」（中・高校生向け） 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	年間図書館来館者数	—	人	目標	3,100,000	3,100,000	2,900,000
				実績	2,779,825	2,640,055	1,754,423
活動	小学生延べ新規登録者数	—	人	目標	—	—	1,800
				実績	1,811	1,571	844
活動	中・高校生延べ新規登録者数	—	人	目標	—	—	600
				実績	534	522	380
活動	一般延べ新規登録者数 (19歳以上)	—	人	目標	—	—	8,500
				実績	8,356	7,537	6,929
活動	としょかんだより等Web閲覧回数	—	回	目標	—	—	—
				実績	—	—	8,871
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H30	R1	R2
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	8,378	9,355	11,448
支出	直接事業費	(b)	1,527	1,712	1,444
	職員人件費	(c)	6,320	7,110	9,360
		業務量（人）	0.80	0.90	1.20
	間接費	(d)	531	533	644
	調整額	(e)	800	810	1,140
	減価償却費		0	0	0
	金利		0	0	0
	退職給与引当		800	810	1,140
	(控) コスト対象外		0	0	0
トータルコスト	(f=b+c+d+e)	9,178	10,165	12,588	

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2	
単位の定義	新規登録者数（人）			
実績数値	(g)	10,701	9,630	8,153
単位あたり区単コスト	(a/g)	783	971	1,404
単位あたりコスト	(f/g)	858	1,056	1,544

実施状況に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染が収まらず、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出される中、令和2年度は、開館時間の短縮、閲覧席の間引き、講座・イベントの度重なる中止をせざるを得なかった。そのため、来館者数が大幅に減少になっている。一方で、新規登録者数について令和元年度と対比すると、児童は約半分となっているが、中学生で約6割、一般については、約9割と大きく数を落としたわけではない。図書館が必要とされているという認識を持ち、状況にかかわらず、今後もPR活動を続けていく。</p>
今後の方向性【改善】	<p>令和3年度においても、4月25日からの緊急事態宣言の影響により、サービスの縮小をせざるを得ない状況が続いている。今後の感染症の状況を見ながら、講座・イベント等については開催する予定であるが、開催できるものについて、電子媒体等を活用し、地道ながらPRを推進していく。</p> <p>また、令和3年9月に予定されている電子書籍サービス等についてのPRを区内全域対象に行い、区民の図書館利用に対する興味に繋げていく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	図書館ボランティア育成事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和47年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(9)	
事務事業目的	乳幼児から高齢者や障害がある方など、様々なニーズに対してサービスを行えるよう、ボランティアを養成する。										
実施内容	<p>【概要】 乳幼児から高齢者、障害がある方など、誰もが本に親しめる環境を整備することを目的に、図書館ボランティアを育成する。ボランティアの資質向上とボランティア人数の拡大のために講習会や講座を開催し、受講後には、区の共催事業への参加や、ボランティア団体への入会を促して、ボランティア活動継続へつなげ、区民の読書活動の啓発に努める。</p> <p>【活動内容】 読み聞かせボランティア講座、パソコンを使った絵本づくりボランティア講座、ブックスタート公開講習会、音訳・点訳ボランティア養成講座等を開催し、様々なボランティア育成に取り組む。 中央図書館の開館に伴い、平成21年6月にボランティア団体「葛飾図書館友の会」が発足した。「葛飾図書館友の会」は、図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、図書館がいつも区民のための場であるよう守り育て、また会員が生涯学習の場として共に学ぶことを目的として活動している。 また、読み聞かせボランティア講座等受講者によるボランティアグループも発足し、図書館での活動を行っている。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
成果	ボランティア登録数	区立図書館にボランティア登録している数	人	目標	420	420	470
				実績	395	456	312
活動	ボランティア育成講座参加者数	講座参加者の延べ人数	人	目標	500	500	500
				実績	432	457	87
活動	図書館ボランティア活動回数	ボランティアとして活動した回数(延べ回数)	回	目標	1,900	2,000	2,200
				実績	2,252	2,227	615
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H30	R1	R2	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	8,066	8,071	4,713	
支出	直接事業費 (b)	166	171	33	
	職員人件費 (c)	7,900	7,900	4,680	
		業務量 (人)	1.00	1.00	0.60
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	1,000	900	570	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	1,000	900	570	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
トータルコスト (f=b+c+d+e)	9,066	8,971	5,283		

単位当たりコスト (円)	H30	R1	R2
単位の定義	ボランティアとして活動回数 (人)		
実績数値 (g)	2,252	2,227	615
単位あたり区単コスト (a/g)	3,940	3,624	7,663
単位あたりコスト (f/g)	4,026	4,028	8,590

実施状況に対する評価	<p>令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で児童の読み聞かせボランティア講座入門編のみの開催となったが、受講後に活動の予定だった受講生や読み聞かせボランティアは、行事の中止が相次ぎ活動することができず、ブックスタートボランティアも保健センターでの健診が中止になったことにより活動ができず、パソコンを使った絵本づくりボランティア講座、音訳ボランティア養成講座等も同様にコロナウイルス感染拡大の影響により開催できなかったことにより、指標であるボランティア育成講座参加者数や図書館ボランティア活動回数に大きな影響が出た。</p> <p>なお宅配サービスについては、コロナ禍において利用者から好評を得ているものの、地域によって宅配サービスのボランティア登録数にばらつきがあるため、宅配サービスについて周知するとともに、ボランティア登録者数を増やすための取り組みについて工夫する必要がある。</p>
今後の方向性【継続】	<p>各種ボランティアの活動を図書館がさらにPRすることにより、ボランティア参加者を増やすとともに、活動中のボランティアにはフォローアップ、スキルアップの支援を引き続き行っていく。また、新型コロナウイルス感染拡大の防止を考慮し、ボランティアの意向を聞きながら行事への参加・活動をしていただくよう働きかけていく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	図書資料等提供						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和24年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(5)	
事務事業目的	<p>快適で、利便性の高い学習環境を維持し、区民の読書活動をはじめとする学習や生活に必要な資料や情報、心豊かに余暇を過ごすための図書資料等を、区民の誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。</p>										
実施内容	<p>【概要】 利用者のニーズに沿った資料を提供していくために、図書資料等の充実を図る。</p> <p>【活動内容】 図書館資料(図書・雑誌・新聞・CD・DVD・ビデオ・カセット・デージー等)の収集・保存・閲覧・貸出のほか、男女平等推進センターとオンライン化による連携及び、都内の図書館から相互貸借サービスを行っている。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H30	R1	R2
活動	蔵書数	—	冊	目標	1,350,000	1,350,000	1,350,000
				実績	1,358,773	1,382,933	1,374,965
活動	新規蔵書数	—	冊	目標	80,000	80,000	80,000
				実績	77,339	75,054	75,255
活動	年間図書資料貸出数	—	冊	目標	—	3,400,000	3,300,000
				実績	3,126,085	2,996,361	2,471,788
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H30	R1	R2
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	1,767	1,742	1,188
	一般財源	(a)	588,157	601,019	658,256
支出	直接事業費	(b)	150,490	159,234	157,669
	職員人件費	(c)	149,925	148,300	138,060
		業務量（人）	19.50	19.40	17.70
	間接費	(d)	289,509	295,227	363,715
	調整額	(e)	18,250	16,065	16,815
	減価償却費	0	0	0	
		金利	0	0	0
		退職給与引当	18,250	16,065	16,815
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト	(f=b+c+d+e)	608,174	618,826	676,259

単位当たりコスト（円）	H30	R1	R2	
単位の定義	サービス提供回数（年間図書資料等貸出数）（冊）			
実績数値	(g)	3,126,085	2,996,361	2,471,788
単位あたり区単コスト	(a/g)	188	201	266
単位あたりコスト	(f/g)	195	207	274

実施状況に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、全面休館や開館時間の短縮、書架への立ち入りを禁止し予約資料のみ貸出し等のサービスを縮小して開館を年度内通して繰り返し行ったため貸出数が例年より下がった。</p> <p>新規蔵書数が昨年並みに増えているにもかかわらず蔵書数が昨年に比べ減っているが、図書館として常に新し情報を提供するため実用書等の情報の古い資料を積極的に除籍し、新しい情報の資料と入れ替えていった結果である。</p>
今後の方向性【継続】	<p>利用者の図書館へのニーズは、資料の貸出しだけではなく、「課題解決が出来る図書館」として、閲覧席での調べものや学習の場へと変化してきている現状を踏まえた蔵書の構成を検討していくとともに、常に新しい情報を提供するために、計画的に蔵書を新刊に入れ替え、古い資料の除籍を推進していく。</p> <p>コロナ禍のため大きく変化してきている生活様式中で、図書館としてどのようなサービスを区民へ提供できるか検討する。</p>

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）						
				担当課			H30	R1	R2	単位	H30	R1	R2				
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）																	
事業内容																	
維持管理（図書館）				教育委員会事務局		—	収入	特定財源	307,179	50,147	3,442	開館日数 （13館分延べ日数）	日	3,810	3,726	3,172	
				中央図書館				一般財源	421,786	331,671	411,589						
一般	8	6	2	1(1)			事業費	707,796	361,278	394,751							
【概要】 区立図書館13館の施設維持管理（中央図書館1・地域図書館6・地区図書館5・図書サービスコーナー1）を行う。（平成29年10月1日新宿図書センターの休館に伴い、平成29年10月17日新宿図書サービスコーナー開設） 【活動内容】 （1）開館時間①中央図書館・立石図書館（月～土）9時～22時、（日・祝）9時～20時 ②地域図書館（火～土）9時～20時、（日・祝）9時～17時 ③地区図書館・図書サービスコーナー（火～木・土・日）10時～17時、（金曜日）10時～20時 （2）休館日①月曜日、月曜祝日の場合はその翌日（中央・立石図書館を除く）②館内整理日（第4木曜日）、③年末年始（中央・立石図書館を除く）、④特別整理期間（年1回、中央図書館・地域図書館4日程度、地区図書館2日程度、図書サービスコーナーは無し）⑤地区図書館・図書サービスコーナーは祝日 【過去の改善実績】 中央・立石図書館では、夜間10時まで開館し利用者の利便性を向上させた。また、23年度より年末年始開館を実施した中央図書館（9時～17時）に続き、24年度より立石図書館でも年末年始開館（9時～17時）を実施し、図書館サービスの向上を図った。令和2年度に窓口サービスを効率化するため亀有図書館に予約棚を設置した。							人件費	20,540	20,540	20,280							
							支出	業務量(人)	2.60	2.60	2.60						
								間接費	629	0	0						
								調整額	90,944	90,684	90,814						
							トータルコスト (a)	819,909	472,502	505,845							
							単位当たり コスト(円) (a/b)	215,199	126,812	159,472							

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）								
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H30	R1	R2	単位	H30	R1	R2					
事業内容					H30	R1	R2								
図書館業務委託（中央図書館カウンター業務）	教育委員会事務局	中央図書館	—	収入	特定財源	0	0	0	年間図書館来館者数	人	2,779,825	2,640,055	1,754,423		
	一般			8	6	2	1(4)	一般財源						121,068	126,405
					事業費	113,168	118,505	120,571							
【概要】 平成21年10月の中央図書館の開館に合わせたサービス拡大に伴い、窓口業務や資料貸出、返却、配架、書架整理、雑誌受入、予約者への連絡等を外部委託とした。 【活動内容】 快適で利便性のある図書館施設をさらに利用しやすくするために、中央図書館は開館時間を平日、土曜日を午後10時まで、日曜・祝日を午後8時まで延長し、12月29日・30日も午前9時から午後8時までの開館とした。さらに平成23年度から年末年始（12月31日から1月3日）についても午前9時から午後5時まで開館している。 【過去の改善実績】 中央図書館開館による施設の規模拡大に伴い、窓口業務を委託し、また、駅前という好立地による増大した来館者の案内、貸出、返却業務の対応を円滑に行った。				支出	業務量(人)	1.00	1.00	1.10	年間図書資料貸出数	冊	3,126,085	2,996,361	2,471,788		
						間接費	0	0						0	
						調整額	1,000	900	1,045						
						トータルコスト(a)	122,068	127,305	130,196						
					単位当たりコスト(円)(a/b)	44	48	74							